

ふれあいトーク記録書 （ 商工会との意見交換会 ）

開催日時： 令和2年2月6日（木） 午前10時30分 ～ 午後0時20分

場 所： 岩倉市商工会館 3階

参加人数： 商工会会員27名 市議会議員13名 計40名

次 第： 1. 開会挨拶 市議会議長 梅村均、 商工会会長 山田幹夫様

2. 意見交換

3. 閉会挨拶 商工会副会長 園原繁様、 市議会副議長 関戸郁文

項目	参加者の意見・質問	議会の応答
1. 岩倉市小規模事業経営支援事業費補助金交付要綱の見直しについて	・岩倉市商工会は、会員の減少等で財政難となっており、中尾張地区で最低（20%×95%）となっている。せめて扶桑町のように県補助の25%まで引き上げを希望する。	・昨年12月定例会の一般質問で、補助金が減少し商工会の運営が厳しくなっているので、補助率を上げるべきであると提案した。
2. 岩倉市商工業振興事業補助金交付要綱の見直しについて	・（答）小規模事業経営支援事業費補助金のほとんどは、人件費に使われる。大口と豊山町は商工会職員の人件費を満額支給している。 ・小規模事業経営支援事業費補助金を上げる必要がないと思われる議員がお見えになれば意見を聞きたい。 ・市との話し合いは難しい。何か事業を行えば、増やすと言われている。商工業振興事業補助金については、増額する予定があるが、実際の金額は少額である。	・（問）市全体の補助金を減少させたときに、商工会の補助率も下がったという執行機関の答弁があった。商工会の予算は570万円程度であるが、実際、どのような事業に使われているのか。 ・以前は、商工会の一部の組合で市のごみ袋を製造販売しており、その収益の中から人件費分を生み出していた。現在は専門業者が行っている。議会として、減額となっている補助金についても何ができるか、総務・産業建設常任委員会等で議論し執行機関に提言すべきだ。

	・ビジネスサポートセンターの人件費は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一環で国が進めていた。国の補助金は3年で打ち切られた。その後は市の補助金となっている。 市の予算は固定資産税の増額などで、少しずつ伸びているのに、なぜ95%の掛け率になっているのか、大口市などでは、行政主導で商工会事業が行われている。岩倉市も積極的に取り組んでいただきたい。 ・商工会が中心となってビジネスサポートセンターを行っているところは少ない。関市では行政主導で行い、センター長には1000万以上の給料を支払い1年で結果を出すよう求めている。専門分野の職員が必要である。今は、5年計画で経営発達支援計画を商工会単独で行っている。5年以降は行政と一緒に事業を推進することになっている。市から商工会への補助がまだまだ少ないと感じる。 ・(答) 専門の職員を配置することも大事であるが、具体的な話はしていない。それよりも、職員の環境を改善することが第一である。現状は残業も多く、職員に負担がかかっているので、まず補助金を増額してほしい。 ・岩倉市の人口はここ数年減少していないが、事業所は140から150軒ほど廃業しているため、財政難となっている。また、事業承継もなかなか進んでいない。職員は、	・ビジネスサポートセンターの人件費は、当初500万円ついていたが、減少している。 ・500万円は事務局長の人件費で、退職された為、県と市の補助金が減額となっている。 ・ビジネスサポートセンターの事業は重要と考える。新しい事業を行うことで、研修費などの補助金が出ることになっているので、しっかり取組んでいただきたい。 ・島根県の雲南市でも、ビジネスサポートセンターに専門の局長を置いて、1年で結果を出すよう求めている。岩倉市でも専門の職員を配置すべきである。 ・(問) 行政と専門の職員配置について、話し合いは持ったのか。 ・補助金を増額するための具体的な数値やビジョンを持つべきと考える。 ・女性の創業支援は全国大会で高い評価を受けている。何も行動していない訳ではない。 ・商工会の皆さんの意見を聞き、それを持ち帰って議論し、行政に対して意見や提言を行っていききたい。 ・市が行政改革を行ったときに、全ての補助金に対し
--	--	---

	事業所に対して、国からの補助金申請などのお手伝いしたりアドバイスをしており日々の業務に取り組んでいる。せめて近隣市町と同様の補助金にしてほしい。 ・「市の予算が拡大していない中で、総合戦略として掲げられている施策については手厚く予算配分されている。」と、岩倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員長が発言されているが、ビジネスサポートセンターの予算は減額されているので、市としては力を注いでいないと考えればよいのか。 ・議会として、先ほどから話されている補助金の補助率の見直しは可能と考えているのか。 ・県補助の 20%を 25%に上げることがそれほど難しいことなのか。	て5%のカットを行った。それが、まだ続いており商工会だけ変更することは難しい。行政は、商工会に対する全体の補助金の金額はさほど変わっていないという見解である。したがって、商工会との意見の相違があることは事実である。 ・以前は、行政と商工会は緊密に連携を図っていた。最近では、商工会に業務委託するだけで、連携が図れていない。また、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で目標値が設定されている。そういったことで、商工会の業務自体が窮屈になっていないか。専門家の助言やコンサルタントが必要になるのではないか。 ・一般論でいえば、予算に関する要望はなかなか難しい。今議論に上がっている補助金以外の国や県などの補助金メニューを使えないか検討すべき。また、外部人材を常勤で抱えるのではなく、外部委託や非常勤で利用できないか考えるべきである。 ・石仏駅のバリアフリーのお金は、国交省からの補助金を利用した例がある。 ・現状は難しいが、行政も色々と努力して歳入の増加を考えている。歳入が増えていけば、可能であると考ええる。 ・個人の考えであるが、シティプロモーションに使うお金を商工会の補助金に使うべきだと思っている。議会として、歳入と歳出の両面でしっかりチェックする
--	---	---

	・ 中小企業・小規模企業振興基本条例の第5条第2項に「市議会は、中小企業等の振興に関し、市の事務執行の監視及び評価に努めなければならない。」とある。議会はどのように責務を果たされるのか。また商工会の要望としては、市の予算の中で、商工会のための予算枠を設け、5年、10年といった期間で計画を立て岩倉のまちづくりに取り組んでほしいと考える。市議会の責務をしっかりと果たして頂きたい。 ・ 岩倉の旧街道（歴史街道）にある街路灯が中本町は暗い、また全体的に経年劣化が進んでいるので、しっかり保全をして欲しい。 ・ 岩倉市の商工会の活動について、議員の皆さんはどのように評価されているか。また、他市町で行われている、良い事例があれば教えて頂きたい。	ことが重要である。 ・ 議会としては、これまで商工会から出された陳情に対しては、請願並みに取り扱い、採択して行政に提出してきた。また、今議論となっている補助率の増加についても、議会の中で協議し、意見が一致できれば、予算修正も可能である。 ・ 条例の中に市議会の責務が入っていることで、このような意見交換会も定期的に行われることになる。また監視と評価についても、予算、決算の中で商工費についてチェックしている。行政に対する政策提案についても、現在取り組んでいる所である。今後もしっかり議論を深めて提案していきたい。 ・ 岩倉駅周辺のマンションは売れ行きが良い、人口減少している訳でもなく、経済的に豊かな人も多く商工業が発展する余地は十分にある。商工会と行政がタイアップしアイデアを出していけば賑わいを創出できると考える。将来、リニア新幹線が開通することで名古屋に来る人も増える。岩倉の魅力をしっかりと発信すべきだ。 ・ 商工会の現状は、業務委託やイベント（桜まつり、夏まつり、秋のふれ愛まつり等）に追われ過ぎていて、本来の業務がしっかりできていないように思われる。イベントなどは、観光協会を設立して行うべきと考えるが、行政は前向きな姿勢を取っていないのが現状で
--	---	---

	・岩倉のまちづくりについては、行政や議員の皆さんで考えて頂きたい。商工会は、事業所が元気になる事業者支援が中心である。間もなく行われる「桜まつり」でも、行政はイベントにお金を使って人を集めることを考えている。商工会は、地元の商店が元気になるような、お金の使い方をして欲しいと市に要望している。	ある。 ・平成 29 年度に行われた、女性マルシェを評価している。若い女性がもっと活躍できる場を作るべきである。 ・近年は、ネット通販などで、商売のあり方が変わってきている。若い人達にもっと頑張ってもらいたい。そのお手伝いができればと思っている。
3. ①桜通線の進捗状況と今後の展開について	・多額の予算を投入して、桜通線を作ることが本当に必要なのか。当初は国、県、市で行う事業であったが、県は事業から撤退したと思うが、何故なのか。	・桜通線の用地買収率は、平成 30 年度 46%、令和元年度 54%で、令和 4 年度 100%を目指して進めている。 ・桜通線は市の都市計画道路なので、進めなければならない事業である。市は、江南・岩倉線の整備を県に行ってもらうため、桜通線の整備に着手した。しかし、萩原・多気線から桜通線まで道路整備するには、周辺の区画整理が必要であり、多額の費用がかかることから事業が進んでいない。市が桜通線と江南・岩倉線を含んだまちづくりについて、しっかりした案を県に示さなければ、事業は進まないと考える。
3. ②野寄の遺跡発掘調査の進捗状況について		・今年度の発掘調査は、4.3ha の内の 1.7ha 分を発掘調査しています。現状 6 ～ 7 割程度終了している。2 月 15 日午前 10 時と午後 1 時から、発掘調査の市民説明会がある。ぜひ、ご参加ください。

議会改革について	・岩倉市議会は議会改革度ランキングで全国の上位と聞いている。そのことが、市民生活の向上にどの程度役立っているのか。 ・今年度はこれまで約 60 団体の視察受け入れをしていると聞いている。他の自治体から進んでいる事例を取り入れたことがあるのか、または今後取り入れる予定があるのか。 ・桜まつりなどのイベントがあるとき職員は、土日でも夜 10 時頃まで残業をして頑張っている。しかし、県からの支援は、月 6 時間の残業代しか出ていない。代休を平日に取るわけにもいかず、仕事をしているのが現状である。行政は、前例が無いと、新しい提案はなかなか取り入れようとしない。議会がしっかりビジョンを持って要望していただきたい。	・一番評価されているのは住民参加である。住民参加を推進することで、市民の意見を正しく行政に反映し住民福祉の向上につなげることができる考える。 ・I C Tの関係で、ペーパーレスや情報の共有に有効なタブレット端末の導入、また、YouTube 上で委員会の内容を配信すること等について利用している自治体の状況を聞き研究している。 ・視察に来た皆様が市内で宿泊や、食事をして頂いているので、岩倉市にとって経済効果が上がっていると思う。また、石仏駅東口の改札ができることで、石仏駅付近の商店が発展できることを期待する。 ・本日の意見交換でお聞きした内容を、委員会で議論し政策提案につなげていくことが重要である。また、行政区で問題となっている事ことを吸い上げて行政に要請することも行っている。 ・2 年前に商工会と意見交換したことが「中小企業・小規模企業振興基本条例」の制定に向けた取組のきっかけにつながっている。今後も議会としてP D C Aサイクルを回しながら改革に取り組んでいく。
-----------------	---	--